

P

PAT-NO: JP410304914A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10304914 A  
TITLE: UMBRELLA WITH LOCK  
PUBN-DATE: November 17, 1998

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
OSHIO, KOZO

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
OSHIO KOZO N/A

APPL-NO: JP09136173  
APPL-DATE: May 9, 1997

INT-CL (IPC): A45B001/04, A45B003/00 , A45B009/02

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent a locking portion from interfering at the time of storage when an umbrella is folded or even when it is spread as much as possible, to place the umbrella in a free state to some extent when the locking portion is locked to a rod portion, and to lock the rod sufficiently even if it is in a remote place.

SOLUTION: A ring 2 is formed by providing a code-matching type locking portion 3 that engages with each other and locks between the free ends of joining arms 2a, 2b having an appropriate length that are made of one continuum member or made by fixing both one side ends of two continuum members and is provided in an appropriate position of the grip 1 of the umbrella, and the umbrella can be stored by tying the ring 2 to a rod by the unlocking and locking operation of the code-matching type locking portion 3 provided in the ring 2. It is also structured so as to allow a connector of an appropriate length to be provided between the grip 1 and the ring 2 and also allow the connector to be taken up by a take-up device provided on the grip 1.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

DERWENT-ACC-NO: 1999-053318

DERWENT-WEEK: 199905

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Umbrella with key - has wheel body that is formed when  
edges of joining arm are connected, and which can be  
wrapped around pole when cord joining lock is unfastened

PATENT-ASSIGNEE: OSHIO K[OSHII]

PRIORITY-DATA: 1997JP-0136173 (May 9, 1997)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 10304914 A	November 17, 1998	N/A	006	A45B 001/04

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 10304914A	N/A	1997JP-0136173	May 9, 1997

INT-CL (IPC): A45B001/04, A45B003/00 , A45B009/02

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 10304914A

BASIC-ABSTRACT:

The umbrella has a cord joining lock (3) with joining arms (2a,2b) whose free edges are connected to form a wheel body (2). The wheel body is provided in a grip (1). The wheel body can be wrapped around a pole by unfastening the cord joining lock.

ADVANTAGE - Wheel body does not become obstructive when umbrella is carried.  
Prevents umbrella from getting stolen.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/9

TITLE-TERMS: UMBRELLA KEY WHEEL BODY FORMING EDGE JOIN ARM CONNECT CAN WRAP  
POLE CORD JOIN LOCK UNFASTENING

DERWENT-CLASS: P24

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1999-040139

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-304914

(43) 公開日 平成10年(1998)11月17日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 4 5 B 1/04  
3/00  
9/02

A 4 5 B 1/04  
3/00  
9/02

Z  
Z  
Z

審査請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平9-136173

(22) 出願日 平成9年(1997)5月9日

(71) 出願人 594195797

大塩 宏三

神奈川県藤沢市湘南台1丁目19番地の2

コーポ湘南303

(72) 発明者 大塩 宏三

神奈川県藤沢市湘南台1丁目19番地の2コ

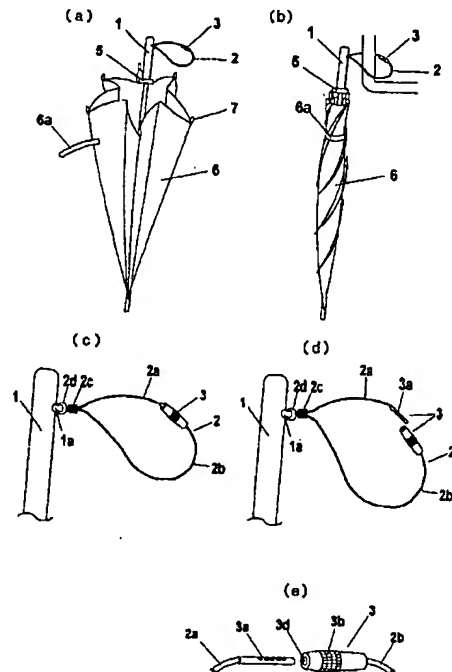
ーポ湘南303

(54) 【発明の名称】 鍵付き傘

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 傘を折り畳んでいる収納時や傘を開いている時においても施錠部が極力邪魔にならないようにし、かつ施錠部を棒体等に施錠しても傘をある程度自由な状態に置けるようにすることであり、また離れた位置にある棒体等でも余裕をもって施錠できるようにすることである。

【解決手段】 1つの連体の部材でなる又は2つの連体の部材を両片側端部を固定してなる適当長の接合腕の両自由端部の間に、互いに係合して施錠するコード合せ式施錠部を設けて輪体を形成し、この輪体を傘の握り部の適所に設け、この輪体に設けた前記コード合せ式施錠部の開錠と施錠操作によって同輪体を棒体等にくくり付けて傘を保管できるようにした構成であり、また握り部と輪体との間に適当長の連結体を連結して設ける構成でもあり、握り部に巻取り具を設けて連結体を巻き取れる構成でもある。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 1つの連体の部材でなる又は2つの連体の部材を両片側端部を固定してなる適当長の接合腕(2a)(2b)の両自由端部の間に、互いに係合して施錠するコード合せ式施錠部(3)を設けて輪体(2)を形成し、この輪体(2)を傘の握り部(1)の適所に設け、この輪体(2)に設けた前記コード合せ式施錠部(3)の開錠と施錠操作によって同輪体(2)を棒体等にくくり付けて傘を保管できるようにしたことを特徴とする鍵付き傘。

【請求項2】 前記握り部(1)と輪体(2)との間に適当長の連結体(4)を連結して設け、その輪体(2)を連結体(4)によってその長さ分離した棒体等に輪体(2)を施錠して固定でき、かつ傘の収納時にはつゆ先(7)・・・(7)を輪体(2)で嵌装して固定できるようにした請求項1記載の鍵付き傘。

【請求項3】 前記連結体(4)が伸縮するスパイラル体(4a)でなる請求項2記載の鍵付き傘。

【請求項4】 前記握り部(1)に巻取り具(8)を設け、連結体(4)を巻き取るようにした請求項2記載の鍵付き傘。

【請求項5】 前記巻取り具(8)とつゆ先留(5)とを一体構造にして設けた請求項4記載の鍵付き傘。

## 【発明の詳細な説明】

【発明の属する技術分野】この発明は、盗難防止のために傘に鍵を設けた鍵付き傘に関するものである。

【従来の技術】従来、傘に鍵を付けたものがいろいろ出願されており、握りに施錠する部分を設けて棒体等に直接引っ掛けて鍵をかける構造のものや、傘が開かないようにロックをかける構造のものなどがいくつか提案されている。それらを調査した上で本発明者は実際の使用においては、公知のもので実施した場合に次のような大きな2つの問題を有していることが認められた。

(1) 施錠部と別体の鍵を用いて施錠する構成においては、鍵を無くすおそれがあり、鍵を無くした場合には、施錠部を開錠することができなくなり、結果的には傘を紛失したと同じことになってしまう。

(2) 棒体等に握り部を直接引っ掛けて鍵をかける構成においては、その施錠部分で施錠して傘を固定しなければならず、このため自由な状態に傘を置くことができない。さらには棒体等の位置関係によっては施錠できない場合もでてくる。

そこで本発明者は上記(1)(2)の問題を解決できる構成として、まず施錠部を鍵の要らないコード合せ式の施錠部にし、さらに傘の握り部に自由動状態に設けた輪体によって施錠する構成をここに提案する。これにより鍵が不要であって鍵を無くすこともなく、しかもやや離れた棒体等にも輪体長分の余裕をもって施錠でき、さらに輪体が自由動できるため、傘をいかなる位置状態にでも自由に置くことができる。ここで本発明者は、先に特

願平8-293078号公報を発明して出願しており、リング体に設けた施錠部が、傘を折り畳んでいる時には覆い布を束ねられる構成にしている。しかしながらその構成にあつては施錠部を棒体等に施錠している時には、覆い布は束ねられず広がったままになってしまうことが認められた。

【発明が解決しようとする課題】本発明は、前述したような問題を解決するもので、その課題とするところは、傘を折り畳んでいる収納時や傘を開いている時においても施錠部が極力邪魔にならないようにし、かつ施錠部を棒体等に施錠しても傘をある程度自由な状態に置けるようにすることであり、また離れた位置にある棒体等でも余裕をもって施錠できるようにすることである。

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するために、本発明は1つの連体の部材でなる又は2つの連体の部材を両片側端部を固定してなる適当長の接合腕の両自由端部の間に、互いに係合して施錠するコード合せ式施錠部を設けて輪体を形成し、この輪体を傘の握り部の適所に設け、この輪体に設けた前記コード合せ式施錠部の開錠と施錠操作によって同輪体を棒体等にくくり付けて傘を保管できるようにした構成である。また握り部と輪体との間に適当長の連結体を連結して設ける構成でもあり、握り部に巻取り具を設けて連結体を巻き取る構成でもある。

【発明の実施の形態】本発明が実施する形態を以下に列挙し、詳細については実施例で説明する。

\* 輪体の部材は、樹脂材、ゴム、FRP、リング状の金属を連鎖した鎖、中空な金属球を金属棒で連鎖した鎖、皮革、合成皮革、布材などの無機質の紐、屈曲する金属、屈曲しない金属、縫い線材等で形成できる。

\* 輪体の構成は、鎖などの連鎖状のものも含めて1つの連体部材によって接合腕を形成してもよいし、2つの連体部材をその片側の両端部を固定して接合腕を形成したものや、2つの連体部材を支軸を中心に接合して接合腕を形成し、その支軸を中心に接合腕が開閉するようにしてもよい。

\* 連結体の部材は、樹脂材、ゴム、リング状の金属を連鎖した鎖、中空な金属球を金属棒で連鎖した鎖、皮革、合成皮革、布材などの無機質の紐、縫い線材等で形成できる。

\* 連結体の形状は、1つの連体の形状でも又は輪状の形状でもよい。

\* 連結体と輪体との連結する構成は、連結体の端部を輪体に遊挿して設けてもよいし、輪体に形成した支軸部分に嵌設したり他の部分に固設してもよい。

\* 施錠部は、予め設定された所定のコードを合わせることで開錠できる施錠体で構成でき、コードとしては数字が最適であるが、アルファベットや記号などで構成してもよく、またコードの操作もダイヤル式でもボタン式でもよい。さらにコードの設定も操作者が任意のコードに

設定できるようにしてもよい。

\* 握り部に設ける輪体及び連結体は握り部のどこでもよく、また設けた部分が握り部の側部を上下に摺動できるようにしてもよい。

\* 接合腕と施錠部との接続の仕方は、両方の端部を圧入して固定したり、ループを形成して互いに遊挿したり、その他の方法でもよい。

【実施例】図面を基に本発明の実施例の構成を説明する。図1は、本発明の1実施例を示し、図1(a)

(b)は実施状態の全体図、図1(c)(d)は輪体2を握り部1に設けた構成を示し、図1(e)は施錠部3の構成を示す拡大図である。まず図1(a)において、傘の基本構成を説明すると、握り部1の下部に冠形状をしたつゆ先留5が上下に摺動可能に遊嵌されており、図示しない放射線状に広がる親骨に覆い布6が展設されており、各親骨の先端にはつゆ先7が設けられている。そして覆い布6の中腹には覆い布6を束ねて固定するための布押さえ6aが設けられている。本実施例の構成において、図1(c)に示すように握り部1の上部に鉄材でなる留め具1aが設けられており、留め具1aには上下に貫通する貫通孔を空け、留め具1aを握り部1内に遊嵌して回動できる状態に設けている。次に2本の皮材で接合腕2a、2bを形成し、その片側の両端部を鋼鉄材でなる固定具2cを折り曲げて挟持して固定し、その折り曲げ部分の左右に貫通する間隙に螺旋体をつぶした形状の留めリング2dを螺入して設ける。次に前記した接合腕2a、2bの自由端部を図1(e)に示すようにそれぞれ係合片3aとダイヤル部3bに接続して設け、係合片3aを係合孔3dに挿入すれば両者が互いに係合して施錠するよう構成する。このように構成した輪体2の端部に設けた留めリング2dを前記した留め具1aの貫通孔に遊挿して設ける。本実施例では施錠部3の構成として、図(e)に示すように4連で回転式のダイヤル部3bで構成して実施しており、接合腕2aの端部に設けた4つの段溝を形成した係合片3aを係合孔3d内に挿入し、ダイヤル部3bの各回転リングの内側に形成した切欠部のうち、一つでも一致しなければ係合片3aは抜けなくなり施錠状態となる。そして予め設定された番号にダイヤル部3bを揃えることによって、前記した各回転リングの切欠部が一行に並んで係合片3aは抜け開錠される。このように構成して実施することで、輪体2がそれ自体屈曲するのと、また輪体2と握り部1とが互いに自由に動ける構成であるため、輪体2が届く範囲であればどんな位置状態にある棒体にも輪体2をくくりつけて施錠することが可能である。施錠するにはその状態で係合片3aを係合孔3d内に挿入し、ダイヤル部3bをランダムに回すことで係合片3aは抜けなくなり施錠状態となる。尚、この実施構成では2本の皮部材で接合腕2a、2bを形成して輪体2を構成したが、1本の部材で端部を有する接合腕2a、2bを形成して輪体2を構

成してもよく、その1本の部材を適当な箇所ですつ折りにし、その部分を固定具2cで挟持して固定し、2つ折りにした部分にできるループに前記した留めリング2dを遊挿して設けてもよいし、また直接留め具1aに固定具2cや2つ折りにした部分を接続して設けてもよい。図2は、輪体2の握り部1に設ける他の実施構成を示すもので、図2(a)は1本の部材で形成した接合腕2a、2bの両端部に施錠部3を設け、1連体の接合腕2a、2bの間に留めリング2dを遊挿させ、この留めリング2dを留め具1aの貫通孔に挿通して設けたものである。この構成であればさらに輪体2が自由動できる状態になり、また輪体2を留めリング2dから挿脱可能に設けることもできる。図2(b)は握り部1の側部に縦に摺動溝1bを形成したもので、留め具1aを摺動溝1bに遊嵌させて上下に摺動できるようにしたものである。この構成によってやや上方又は下方方向に離れた棒体等にも輪体2を移動させて施錠することができる。図3は、輪体2の他の実施構成を示すもので、図3(a)は施錠部3を押しボタン式にしたダイヤル部3bで構成したものである。この施錠する構成にしても施錠状態から予め設定された番号(又はコード)に押しボタンを操作することで開錠することができる。図3(b)は接合腕2a、2bを連鎖状の2連体の鎖でその片側両端部を固定して輪体2を形成したものであり、施錠部3の構成も係合孔3dから開錠/施錠によって出没するアーチ状の係止片3cで構成したものである。この構成によって接合腕2aの適宜な位置で鎖のリング部分を係止片3cに挿通して施錠できるため、輪体2の長さを適宜可変でき、太い棒体や細い棒体にも適宜の長さでくくりつけて施錠することができる。ここで接合腕2a、2bは連鎖状の1連体の鎖で形成してもよく、その適宜な中間の部位を握り部1に固定して実施しても勿論よい。図4は、本発明の握り部1と輪体2との間に適当長の連結体4を介在して設けた構成である。図4(a)において、連結体4を連鎖状の鎖で形成し、その端部のリング部分を握り部1の留め具1aに遊嵌し、もう一方の端部を図4(c)に示すように、接合腕2aと接合腕2bとが枢支している支軸2eに遊嵌し固定したものである。接合腕2a、2bは半円形状でやや弾力性のあるステンレスで形成し、支軸2eを中心に回動するようになっている。この構成により図4(e)に示すように、やや離れた棒体等にも連結体4の長さ分延長して施錠することができる。そして図4(f)に示すように傘の収納時には、各つゆ先7・・・7を輪体2によって嵌装して留めることができ、覆い布6が外に広がるのを防止できる。ここで従来の傘ではこの広がりを防止するのに、図1(a)(b)に示したような傘で握り部1の下部につゆ先留5が設けられているか、又は布押さえ6aを小さくしたような(図示しない)ものをつゆ先7・・・7の周りに巻いて固定するようになっているものがあるが、本発明の

構成によって輪体2がつゆ先留5の役目も兼用できるようになる。ここで輪体2の他の実施構成として図4

(d)に示すように、1連体でなる接合腕2a、2bに留めリング2d又は鎖で形成した連結体2の最端リングを遊挿して、連結体4と連結してもよいし、また接合腕2a、2bの中央の適当な箇所を連結体4と固設して連結してもよい。また連結体4の実施構成として、図4

(b)に示すように輪状形状をした連結体4を輪体2に遊挿させたりくくりつけて設けてもよい。図5は、施錠部3の他の実施構成を示すものである。施錠部3のダイヤル部3bの中心部分に左右へ貫通する係合孔3dを設け、その係合孔3dに挿入して係合させる係合片3aに多数の段溝を形成したものである。この構成によりダイヤル部3bの各回転リングの切欠部と前記段溝とを一段づつずらして施錠することができ、これにより施錠できる輪体2の内径を適宜な径に可変することができる。このためやや径の太い棒体等にも適宜施錠することが可能である。ここでひんじ3eは係合孔3d内に係合片3aがどんな角度にでも挿入できるように回転する構造となっている。図6は本発明の実施構成において、連結体4をスパイラル状にしたスパイラル紐4aで構成したものである。この構成によりスパイラル紐4aは張力がかかると伸長し、その長さは張力がかからない状態に比べて2倍以上の長さにもなる。この構成によりいくらか離れた棒体等にも、スパイラル紐4aを伸ばして施錠することが可能である。図7は握り部1に設けた巻取り具8によって、連結体4を巻き取るようにした構成を示すものである。この構成で予め連結体4は巻き取られた状態にあり、巻取り具8内に収容されているが、輪体2を引っ張ることにより、その引っ張り長分の連結体4を外へ引き出すことができる。この構成によって傘を開いている際は余剰の連結体4を巻取り具8内に収容できるため邪魔にならないし、かなり離れた棒体等にも連結体4を伸ばして施錠することが可能である。ここで図8に示すように、巻取り具8にロック機構の手段を設けて、連結体4を引っ張ったところで止まるようにしてもよく、図8(a)に示すようにロック解除するボタン8aやレバー等を操作すれば再び巻き取るように構成してもよい。また図8(b)に示すように、連結体4を串団子状の連結体4bで形成し、巻取り具8の挿入口に縦に細いスリット孔を有する係止孔8bを設け、連結体4bの適宜位置の団子形状の部分を下図のように係止させて止めるようにしてもよい。ここで串団子状の連結体4bとしては、樹脂で形成してもよく、また前記した中空な金属球を金属棒で連鎖した鎖で形成してもよい。図9は、巻取り具8とつゆ先留5とを一体構造にした実施構成を示すものである。図9(a)に示すように、巻取り具8の底部に環状部を形成し、巻取り具8が握り部1の下で上下に摺動できるように握り部1に遊嵌する。この構成により(b)図に示すように巻取り具8を下方に降ろせば、前

記した環状部内に各つゆ先7・・・7を嵌装して収容することができる。そして嵌装した状態のまま(c)図に示すように棒体等に施錠でき、また(d)図に示すように環状部の底部分の外径を輪体2の内径より若干大きく形成すれば、その周端上に輪体2を載せて収納できる。ここで巻取り具8と輪体2、又はつゆ先留5と輪体2、又は握り部1と輪体2とが互いに係止する構成にしてもよく、例えばマグネットで両者を磁着するようにすれば、下に向けて傘を立てても輪体2はその部分から下に垂れ下がることがない。また握り部1の外径を巻取り具8の外径と同じ大きさに形成してもよく、このように構成すれば両者に段差が生じず外観も良くなる。本発明において、輪体2が施錠できるものは棒体のみならず、格子やその他の形状の物体にも施錠できることは言うまでもない。また回転式の施錠部3のダイヤル部3bも2連式、3連式と適宜構成してよい。また握り部1上に別体の留め具1aを設けなくても握り部1自体に係止できる溝や穴を形成して直接輪体2を設けるように構成してもよい。また施錠部3に巻取り機構を設けて構成してもよい。

【発明の効果】本発明は上述したような構成であるから、次のような効果を奏することができる。本発明の輪体において、輪体が傘を施錠する役目と傘を担持する役目との両方の役目を果たすことができ、棒体等に施錠できることは勿論、施錠状態にした輪体を持って傘を引っ掛け具に掛け下げたり、手で持って歩いたりすることもできる。また折り畳み傘にあっては、かばん等の手提げ部分に輪体を施錠状態にしてぶら下げてかばんと一体にして持ち運ぶこともできる。このように傘を折り畳んでいる収納時や傘を開いている時に施錠する輪体も邪魔になることがなく、また施錠部を棒体等に施錠しても、傘を自由な位置状態に置くことができる。さらに棒体等の距離や位置状態にもある程度影響されずに施錠することが可能である。これにより従来にない実用的な盗難防止の鍵付き傘を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a)(b)本発明の実施状態を示す全体斜視図

(c)(d)(e)本発明の1実施例を示す部分斜視図

【図2】(a)(b)本発明の1実施例を示す部分斜視図

【図3】(a)(b)本発明の1実施例を示す部分斜視図

【図4】(a)(b)本発明の1実施例を示す部分正面図

(c)(d)本発明の1実施例を示す部分斜視図

(e)(f)本発明の実施状態を示す全体斜視図

【図5】(a)(b)本発明の1実施例を示す部分斜視図

【図6】本発明の1実施例を示す部分正面図

【図7】本発明の1実施例を示す部分正面図

【図8】(a)(b)本発明の1実施例を示す部分斜視図

図

【図9】(a)(b)本発明の1実施例を示す部分斜視図

図

(c)(d)本発明の実施状態を示す全体斜視図

【符号の説明】

1 : 握り部

2 : 輪体

2a、2b : 接合腕

3 : 施錠部

4 : 連結体

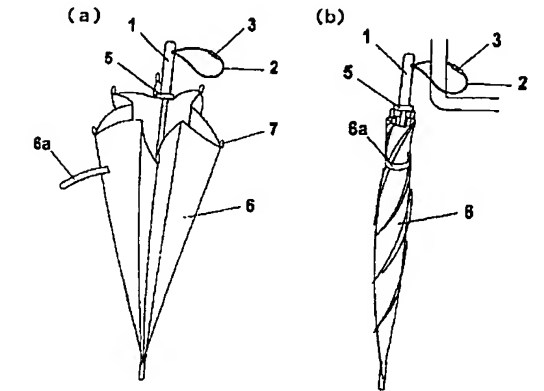
5 : つゆ先留

6 : 覆い布

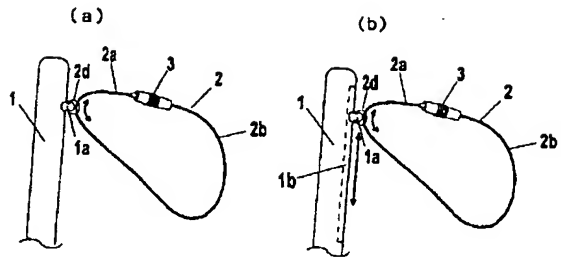
7 : つゆ先

8 : 巻取り具

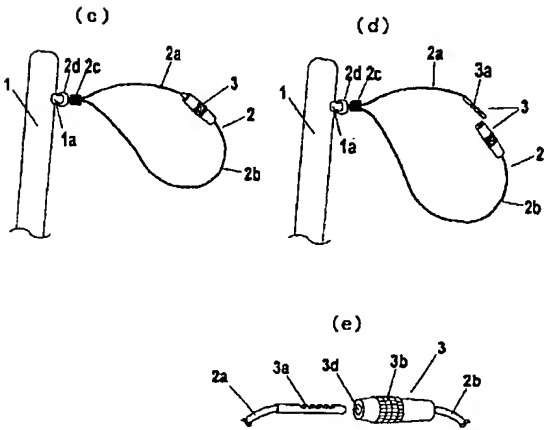
【図1】



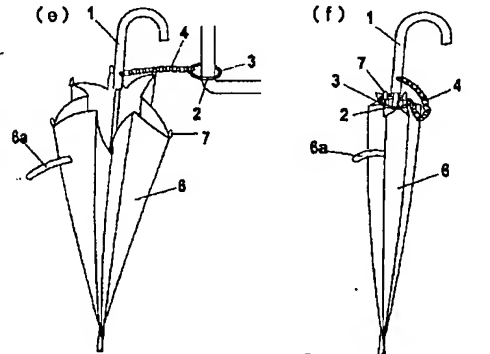
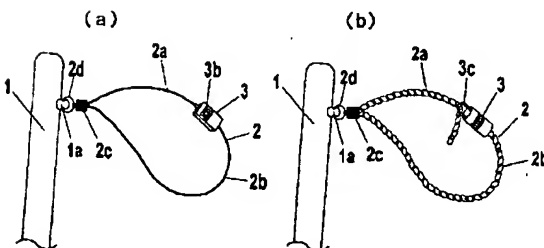
【図2】



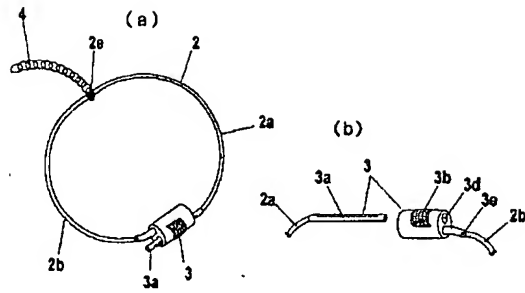
【図4】



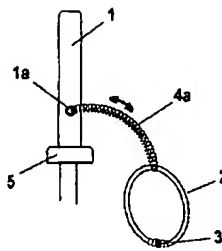
【図3】



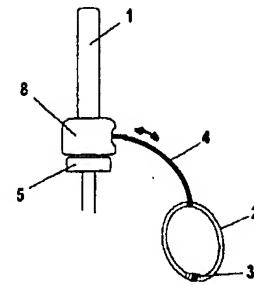
【図5】



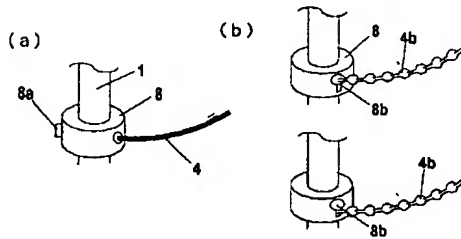
【図6】



【図7】



【図8】



【図9】

